

第3回 CIGS 原子力と法ワークショップ

「原子力損害賠償の経済分析 風評被害の経済分析と法」

【開催趣旨】

福島事故後、福島県の農産品を中心に、実際には放射性物質で汚染されていないにもかかわらず、価格が下落するという風評被害が発生した。このような風評被害についても、原子力損害賠償の対象として、1兆円以上の損害賠償が支払われてきた。もっとも、このような風評被害については、法律学上異論もあることから、そのような疑義を払拭する一助として、経済学の分析を援用する意義がある。また、農産品等の価格下落の様々な要因があるため、いつまでの減収が風評被害に該当するのかという問題の分析について、経済学的分析の知見を借りることが必要であろう。このように、風評被害という比較的新しい法的問題について、経済学的に分析し、その結果を法律上の議論に生かすことには大きな意義があると考えます。

ワークショップの開催形式については、従前の広く公衆を招き、比較的多数の人を相手に一方的に語りかけるのではなく、講演者による説明の後、有識者等によるラウンドテーブルでの座談会形式にて開催することとしたい。このようにすることによって、様々な知見を集約し、様々な視野から集中して検討することが可能になる。

【主催】 一般財団法人 キャノングローバル戦略研究所

【日時】 2017年8月1日（火） 13：30～16：30

【会場】 キャノングローバル戦略研究所 会議室

【住所】 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング11階

【言語】 日本語

【プログラム】

13:30-13:35	主催者挨拶 福井 俊彦 キャノングローバル戦略研究所 理事長
13:35-14:15 講演 1	「風評被害の経済分析」 戒能 一成 経済産業研究所研究員、東京大学特任教授
14:15-14:45 講演 2	「風評被害の現状と課題」 田村 英康 経済産業省資源エネルギー庁福島 G 室長
14:45-15:05 講演 3	「風評被害の経済分析と法」 豊永 晋輔 CIGS「原子力と法」研究会座長 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 参与
15:05-15:20	休憩
15:20-16:30	ディスカッション モデレーター：芳川 恒志 キャノングローバル戦略研究所 研究主幹 ディスカッサント：戒能 一成、豊永 晋輔、田村 英康、 大江 紀洋 前 WEDGE 編集長(現 JR 東海)、 竹内 純子 「原子力と法」研究会委嘱委員、 ほか 2,3 名
16:30	閉会